

<心理学科> (認定課程: 中学校1種(社会) )

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	この学期は、全学共通科目の履修と、学部専門科目のうち基礎的な科目を履修することにより、大学での学びの基礎を固めることを目標とする。教科に関する科目としては、「地理学A」「法学」という基礎的科目が配当されている。学部で必修となる「アカデミック・スキルズ」では、文献や資料の探し方、レポートの書き方など、今後の学修に必要な基本的なスキルを身につけさせる。講義としては、心理学全般の基礎となる「心理学概論1」および各トピックスを扱う「現代心理学の諸領域1」が開講され、心理学のみならず社会科学においても必要とされる人間理解のベースを形成する。また、「心理学統計法1」が必修、「心理データ処理演習」が選択として配当されており、データの基本的な統計処理とその意味について学ぶ。社会科学においては数量的な資料から学ぶ機会が多く、それらを客観的に読み取り理解する訓練は不可欠であり、その基礎力を養うことにより、資料を授業に有効に生かせる教師を目指す。
	2 Semester	この学期は、1年次春学期に引き続き、全学共通科目の履修と、学部専門科目のうち基礎的な科目を履修することにより、大学での学びの基礎をさらに確実にすることを目標とする。教科に関する科目としては「地理学B」が配当され、春学期に引き続き地理学の基礎を固めることを目指す。学部配当科目としては、春学期に引き続き心理学全般の基礎となる「心理学概論2」および各トピックスを扱う「現代心理学の諸領域2」が開講され、高校までは学習する機会がなかった心理学の概要を把握し理解できるようにする。それらに基づき、生徒を全人的に理解し、真の『生きる力』を育むことができる教員となるための幅広い人間理解の育成を目標とする。統計に関しては「心理データ解析法」が配当され、春学期の講義および演習からさらに進んで、実際に学生自身がデータ解析を行い、データの意味や適切な取扱いについて学びを深める機会とする。
2年次	3 Semester	この学期は、1年次に引き続き全学共通科目を履修するほか、学部専門科目は心理学の各領域に分化され、幅広い学びから深化した学びに移行して、社会科学の基礎となるより深い人間理解の醸成を目指す。「教職に関する科目」の履修が開始され、教育の理念や歴史等を学び、教職に関する適切な理解と自身が教職を選択することについての真摯な覚悟を促す。「教科に関する科目」としては、「歴史Ⅱ」「地誌A」「国際法A」が配当され、世界の歴史、アジア・英語圏の地理、空陸海及び紛争に関わる国際法について包括的な知識を身につけることを目標とする。心理学の視点から社会科学を見据え融合する学びとしての「心理学と現代社会」および「社会心理学1(社会・集団・家族心理学)」では、個人と社会の問題について様々な視点から学ぶ。学部専門科目としては、「心理学基礎実験演習1(心理学実験)」が課され、実験や調査の実施、データの分析、結果の考察までの一連の経過を実際に体験する。論理的な思考に基づく問題の立て方、結果の読み方などを身につけることを目的とした総合的な演習となっている。「臨床心理学概論1」「発達心理学概論1(発達心理学)」など細分化した概論と「教育心理学」は、子どもの発達、適応、学習についてのより深い理解に不可欠である。また、子どもをめぐる問題が多様化している今日では、ストレス対処についての理解も重要であり「精神保健学(健康・医療心理学)」では、このような知識と対処を身につけることも目標とする。
	4 Semester	この学期は、春学期に引き続き全学共通科目、より分化した学部専門科目の履修に加え、教科に関する科目の履修に重点が置かれている。「歴史Ⅰ」「地誌B」「国際法B」が配当され、日本の歴史、ラテンアメリカの地理、国際法と安全などについて包括的な知識を身につけることを目標とする。「社会心理学2」では、個人と社会について、より展開的な内容が論じられる。また、心理学の視点を生かして社会科学と融合する学びとして、「心理学と法」「心理学と倫理」「心理学と哲学」の3科目が配当され、学科の特徴を示している。教職に関する科目では、児童生徒の学習と発達、教育課程に関する学びが導入され、教職の実践についてより具体的に理解を深めることを目指す。学部専門科目としては「障害者・障害児心理学」が配置され、障害を持つ児童生徒とその対応について、さらに詳細に学ぶ。インクルーシブ教育が推進され、通常学級においても様々な特性を持つ児童生徒への正しい理解と適切な対応は不可欠であり、そのような実践的指導ができる教師を目指す。他に、「パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)」では、生徒の性格や個人差について理解を深め、「司法・犯罪心理学」では、学校現場で出会う非行の問題と処遇について具体的に学ぶことができる。「精神医学(精神疾患とその治療)」では、思春期に好発する精神疾患と治療について基礎的な知識を身につけることができるなど、充実した多様な科目が配当されている。「基礎実験演習2」および各概論は、春学期に引き続きものであるが、この学期にはこのほかに学生の将来設計に関わる「キャリア形成」が配当されている。教職に関する科目としては、教育の制度を理解し、目的に合わせた学級経営、学校経営の視点と実際について学ぶほか、春学期の「教職入門」で学んだ、職業として教職を選択する意義と意志を、あらためて確認する機会とする。春休みにはオーストラリアへの短期留学である「心理学海外演習」が開講され、外国の地理、歴史、文化、大学教育等に実際に触れる機会を設けている。

3年次	5セメスター	<p>3年次は、学部の専門教育の中核をなす学年であり、講義は各概論からさらに詳しい内容へと移行し、心理学の考え方と専門的知識理解を深めることをめざす。ゼミに配属され、「心理学課題演習1」では各学生の関心に合ったテーマについての資料収集、文献講読などを行い、あわせて情報収集能力、プレゼンテーションやディスカッションの能力についても向上を図る。課題を見つけ、その解決策を立て、実行して結果を分析する一連の作業は、心理学のみならず、教育の現場においても役に立つ能力であり、自ら建設的に問題解決に取り組める教師を養成する。「認知行動療法」は、そのような問題解決に有効なアプローチであり、「青年期臨床心理学(教育・学校心理学)」は、思春期青年期にある生徒の内面と行動の理解に役立つ科目である。さらにこの学期以降は、学部のカリキュラムの特徴ともいえる実習科目が多く配当されている。「心理アセスメント実習1(心理的アセスメント)」では、質問紙法を中心とした様々な心理検査の成り立ちを理解し、学生自身が実際に体験し、結果の処理も行う。学校では生徒の能力や性格把握のために、調査や検査が実施されることが多く、それらの意味や結果の示すところを適切に理解できる素養を養う。「カウンセリング基礎実習(心理演習)」では、カウンセラーとクライアントの役割を取ってロールプレイを行い、よいコミュニケーションを実際に体験して身につける。秋学期に履修する教職に関する科目「教育相談(カウンセリングを含む)」の講義と合わせて体験的な機会が設けられ、心理学科ならではのカリキュラムとなっている。教科に関する科目としては「自然地理学A」が配当され、地理に関して1年次よりさらに専門的な知識理解の修得を目指す。教職に関する科目としては、教育方法についてのより具体的な学びが中心となる。道徳教育や教科教育について学び、授業準備の基本と実践的な指導力を身につけることを目標とする。</p>
	6セメスター	<p>この学期は、春学期に引き続き、心理学に関するより専門的な講義が配当されている。ゼミ「心理学課題演習2」においては、テーマに沿って知識理解を深め、プレゼンテーションやディスカッションの技術も向上させることは春学期と同様であるが、卒業論文の作成に向けて各自の研究テーマを確立することも大きな目標となる。学部の専門科目としては、2年次から履修できる科目が多いため、各自が2・3年次に適宜振り分けて履修しており、科目の内容や趣旨は2年次同様である。実習科目は春学期と同様であるが、「心理アセスメント実習2」は、投影法検査が中心となり、自身が体験し結果を分析することにより、自己理解の貴重な機会となる。教科に関する科目としては、「自然地理学B」が配当され、春学期に引き続き気候・地形の視点から環境の変化をとらえる包括的知識を修得することをめざす。教職に関する科目としては、授業とともに生徒の生活に大きな位置を占める特別活動の指導方法について学ぶほか、引き続き教科教育法により、指導案の作成など授業の準備やその実施について实际的に進めていく。「教育相談(カウンセリングを含む)」では、学校場面に即した実際の相談方法やカウンセリングマインドについて学ぶが、学部の専門科目や実習によって、それらがより強固に補完されることは、春学期にも述べたように心理学科の学びの特徴である。</p>
4年次	7セメスター	<p>この学期では、「卒業研究」として学士課程の集大成である卒業論文の作成に取り組む。3年間の学修で培った心理学の知識、理解に基づいて、各自関心を持つテーマを設定し、実現可能な方法で研究を行う。先行研究を網羅し、それを整理して問題点を見つけ、論理的な仮説を立て、実験、調査、観察、面接など、仮説検証にふさわしい方法を考え、実施する。このような一連の客観的、科学的、論理的思考は、社会科教育においても求められる資質であり、授業に生かすことができるような訓練ともなる。名古屋子ども適応相談センターに出向く「臨床心理学学外実習A(心理実習)」は、学科の特色を示す実習となっている。不登校児童生徒数は高止まり傾向を示し、教師になれば必ず対応を迫られる問題である。実際にこのような生徒と接し、スタッフから助言を受けられる機会は貴重である。教育実習期間と重なるため、単位認定に必要な出席を確保できない場合もあるが、単位にならなくても参加する意欲的な学生も多い。教職に関する科目としては、生徒指導・進路指導の方法について学修する。教育実習では、十分な事前指導と授業準備の後に現場に出向き、授業実践の力を身につける。また、生徒と日常的に接することで観察眼を養い、多面的な生徒理解を深め、学校現場や教師の仕事について实际的に理解し、教職に就くことに対して真摯に再確認することを目標とする。</p>
	8セメスター	<p>この学期では、引き続き卒業論文の作成に取り組む。研究計画を立て、方法を確立し、データを収集したのちは、データの種類に応じて適切に処理を行う。数量的な処理が可能な場合は、仮説を検証するために適切な統計的手法を選択し処理を行う。また、処理された結果について、論理的で説得力のある考察ができるように試みる。実社会での出来事には、多様な要因がかかわっており、想定通りの結果が得られないことはめずらしくない。考慮に入れなかった要因まで含めて考察できる視野の広さを養うことも、目標のひとつである。「臨床心理学学外実習A(心理実習)」は引き続き開講されている。教育実習では引き続き、春学期と同様の目標をめざす。実習終了後には、十分な振り返りを行い、不十分であった点について確認し補強をしていくこととなる。「教育実践演習(中・高)」では、このような振り返りも含めて、教師として現場に出る前の最終的な基盤固めを行うことを目標とする。</p>

<心理学科> (認定課程: 高等学校1種(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1セメスター	この学期は、全学共通科目の履修と、学部専門科目のうち基礎的な科目を履修することにより、大学での学びの基礎を固めることを目標とする。教科に関する科目としては、基礎的科目としての「法学」および心理学全般の基礎となる「心理学概論1」が配当されている。学部で必修となる「アカデミック・スキルズ」では、文献や資料の探し方、レポートの書き方など、今後の学修に必要な基本的なスキルを身につけることができる。講義としては、心理学の各領域のトピックスを扱う「現代心理学の諸領域1」が開講され、心理学および公民科の基礎となる人間と社会についての理解を固める。また、「心理学統計法1」が必修、「心理データ処理演習」が選択として配当されており、データの統計処理とその意味について学ぶ。社会科学においては数量的な資料から学ぶ機会が多く、それらを客観的に読み取り理解する訓練は不可欠であり、その基礎力をつけることにより、資料を授業に有効に生かせる教師を目指す。
	2セメスター	この学期は、1年次春学期に引き続き、全学共通科目の履修と、学部専門科目のうち基礎的な科目を履修することにより、大学での学びの基礎をさらに確実にすることを目指す。教科に関する科目としては「心理学概論2」が配当され、春学期に引き続き心理学全般の基礎を固めることを目指す。学部開講科目としては、春学期に引き続き心理学の各領域のトピックスを扱う「現代心理学の諸領域2」が開講され、高校までは学習する機会がなかった心理学の概要を理解できるようにする。それらに基づき、生徒を全人的に理解し、真の『生きる力』を育むことができる教員となるための、幅広い人間理解の育成を目標とする。統計に関しては「心理学統計法2」「心理データ解析法」が配当され、春学期の講義からさらに進んで、実際に学生自身がデータ処理を行い、データの意味や適切な取扱いについて学びを深める機会とする。
2年次	3セメスター	この学期は、1年次に引き続き全学共通科目を履修するほか、学部専門科目は心理学の各領域に分化され、幅広い学びから深化した学びに移行して、公民科の基礎となる、社会と人間に対するより深い理解の醸成を目指す。また「教職に関する科目」の履修が開始され、教育の理念や歴史等を学び、教職に関する適切な理解と自身が教職を選択することについての真摯な覚悟を促す。「教科に関する科目」としては、「国際法A」および心理学の視点から社会科学を見据え融合する学びとして「心理学と現代社会」が配当されている。また、1年次の心理学概論からさらに専門的に分化した4つの概論「実験心理学概論1」「応用心理学概論1」「臨床心理学概論1」「発達心理学概論1(発達心理学)」が配当され、心理学についてより幅広く学修することをめざす。学部専門科目としては、「心理学基礎実験演習1(心理学実験)」が課され、実験や調査の実施、データの分析、結果の考察までの一連の経過を実際に体験する。論理的な思考に基づく問題の立て方、結果の読み方などを身につけることを目的とした総合的な演習となっている。「心理調査概論」では、心理・社会的な調査の具体的な方法を学ぶ。「社会心理学1(社会・集団・家族心理学)」は公民の基礎をなす社会と人間理解に、「教育心理学」は学習・教育に関する理解に、それぞれ欠かせない科目である。また、生徒をめぐる問題が多様化している今日では、ストレスとその対処についての理解も重要であり、「精神保健学(健康・医療心理学)」では、このような知識と対処を身につけることも目標とする。
	4セメスター	この学期は、春学期に引き続き全学共通科目、より分化した学部専門科目の履修に加え、教科に関する科目の履修に重点が置かれている。「国際法B」および、心理学の視点を生かして社会科学と融合する学びとして、「心理学と法」「心理学と倫理」「心理学と哲学」の3科目が配当され、法学、倫理学、哲学の基礎を固め学科の特色を示す科目となっている。さらに春学期に引き続き4つの概論「実験心理学概論2(学習・言語心理学)」「応用心理学概論2」「臨床心理学概論2」「発達心理学概論2」が配当され、心理学の基礎をさらに深め固めることをめざす。教職に関する科目では、児童生徒の学習と発達、教育課程に関する学びが導入され、教職の実践についてより具体的に理解を深めることを目指す。学部専門科目としては「障害者・障害児心理学」が配当され、障害を持つ生徒とその対応について、さらに詳細に学ぶ。インクルーシブ教育が推進され、通常学級においても様々な特性を持つ児童生徒への正しい理解と適切な対応は不可欠であり、そのような実践的指導ができる教師を目指す。「組織心理学(産業・組織心理学)」では職場のメンタルヘルスを取り扱う。教師も一人の労働者であり、自身のストレスケアに役立つ科目である。他に、「パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)」では、生徒の性格や個人差について理解を深め、「司法・犯罪心理学」では、学校現場で出会う非行の問題と処遇について具体的に学ぶことができる。「精神医学(精神疾患とその治療)」では、思春期・青年期に好発する精神疾患と治療について基礎的な知識を身につけることができ、「多様な人生の発達心理学」は死生学をテーマとしており自殺予防について学ぶことができる。「基礎実験演習2」および各概論は、春学期に引き続きものであるが、この学期にはこのほかに学生の将来設計に関わる「キャリア形成」が配当されている。教職に関する科目としては、教育の制度を理解し、目的に合わせた学級経営、学校経営の視点と実際について学ぶほか、春学期の「教職入門」で学んだ、職業として教職を選択する意義と意志を、あらためて確認する機会とする。春休みにはオーストラリアへの短期留学である「心理学海外演習」が開講され、外国の地理、歴史、文化、大学教育等に実際に触れる機会を設けている。

3年次	5セメスター	<p>3年次は、学部の専門教育の中核をなす学年であり、講義は各概論からさらに詳しい内容へと移行し、心理学の考え方と専門的知識理解を深めることをめざす。ゼミに配属され、「心理学課題演習1」では各学生の関心に合ったテーマについての資料収集、文献講読などを行い、あわせて情報収集能力、プレゼンテーションやディスカッションの能力についても向上を図る。課題を見つけ、その解決策を立て、実行して結果を分析する一連の作業は、心理学のみならず、教育の現場においても役に立つ能力であり、自ら建設的に問題解決に取り組める教師を養成する。「認知行動療法」は、そのような問題解決に有効なアプローチであり、「青年期臨床心理学(教育・学校心理学)」は、青年期にある生徒の内面と行動の理解に役立つ科目である。さらにこの学期以降は、学部のカリキュラムの特徴ともいえる実習科目が多く配当されている。「心理アセスメント実習1(心理的アセスメント)」では、質問紙法を中心とした様々な心理検査の成り立ちを理解し、学生自身が実際に体験し、結果の処理も行う。学校では生徒の能力や性格把握のために、調査や検査が実施されることが多く、それらの意味や結果の示すところを適切に理解できる素養を養う。「カウンセリング基礎演習(心理演習)」では、カウンセラーとクライアントの役割を取ってロールプレイを行い、よいコミュニケーションを実際に体験して身につける。教職に関する科目としての「教育相談(カウンセリングを含む)」の講義と合わせて体験的な機会が設けられ、心理学科ならではのカリキュラムとなっている。教科に関する科目としては3年次のみ配当される科目はないが、2年次～4年次配当の科目を2・3年次に振り分けて履修する機会が多い。教職に関する科目としては、教育方法についてのより具体的な学びが中心となり、教科教育については指導案の作成など授業準備の基本と実践的な指導力を身につけることを目標とする。</p>
	6セメスター	<p>この学期は、春学期に引き続き、心理学に関するより専門的な講義が配当されている。ゼミである「心理学課題演習2」においては、テーマに沿って知識理解を深め、プレゼンテーションやディスカッションの技術も向上させることは同様であるが、卒業論文の作成に向けて各自の研究テーマを確立することも大きな目標となる。実習科目は春学期と同様であるが、「心理アセスメント実習2」は、投影法検査が中心となり、自身が体験し結果を分析することにより自己理解の貴重な機会となる。教科に関する科目としては、春学期と同様、2年次以降配当の科目を、各期に振り分けて修得していく。教職に関する科目としては、授業とともに生徒の生活に大きな位置を占める特別活動の指導方法について学修するほか、引き続き教科教育法により、授業の準備や実施について実際の学習を進めていく。「教育相談(カウンセリングを含む)」では、学校場面に即した実際の相談方法やカウンセリングマインドについて学ぶが、学部の専門科目や実習によって、それらがより強固に補完されることは、春学期にも述べたように心理学部の学びの特徴である。教科に関する科目としては春学期と同様3年次のみ配当される科目はないが、学部専門科目とともに2年次～4年次配当の科目を2・3年次に振り分けて履修する機会が多い。</p>
4年次	7セメスター	<p>この学期では、「卒業研究」として学士課程の集大成である卒業論文の作成に取り組む。3年間の学修で培った心理学の知識、理解に基づいて、各自関心を持つテーマを設定し、実現可能な方法で研究を行う。先行研究を網羅し、それを整理して問題点を見つけ、論理的な仮説を立て、実験、調査、観察、面接など、仮説検証にふさわしい方法を考え、実施する。このような一連の客観的、科学的、論理的思考は、社会科教育においても求められる資質であり、授業に生かすことができるような訓練ともなる。名古屋市子ども適応相談センターに出向く「臨床心理学学外実習A(心理実習)」は、学部の特色を示す実習となっている。対象は主に不登校の中学生であるが、近年高等学校でも不登校対応を迫られる現状があり、実際にこのような生徒と接し、スタッフから助言を受けられる機会は貴重である。教育実習期間と重なるため、単位認定に必要な出席を確保できない場合もあるが、単位にならなくても参加する意欲的な学生も多い。教職に関する科目としては、生徒指導・進路指導の方法について学修する。教育実習では、十分な事前指導と授業準備の後に現場に出向き、授業実践の力を身につける。また、生徒と日常的に接することで観察眼を養い、多面的な生徒理解を深め、学校現場や教師の仕事について実際に理解し、教職に就くことに対して真摯に再確認することを目標とする。</p>
	8セメスター	<p>この学期では、引き続き卒業論文の作成に取り組む。研究計画を立て、方法を確立し、データを収集したのちは、データの種類に応じて適切に処理を行う。数量的な処理が可能な場合は、仮説を検証するために適切な統計的手法を選択し処理を行う。また、処理された結果について、論理的で説得力のある考察ができるように試みる。実社会での出来事には、多様な要因がかかわっており、想定通りの結果が得られないことはめずらしくない。考慮に入れなかった要因まで含めて考察できる視野の広さを養うことも、目標のひとつである。</p> <p>教育実習では引き続き、春学期と同様の目標をめざす。実習終了後には、十分な振り返りを行い、不十分であった点について確認し補強をしていくこととなる。「教育実践演習(中・高)」では、このような振り返りも含めて、教師として現場に出る前の最終的な基盤固めを行うことを目標とする。</p>